前略
貴君の原稿、拝見致しました。
いつも、まとまっていて良い作品を書かれるのですが、もう一歩と云う所……何かが足りないのです。
やはり強烈な何かがないと、わが誌としましても掲載する自信が無いのです。一応原稿はお返ししますが、又その

私の青春の墓は
北国の深い雪の
中に
埋もれている・
・・・・

青春の墓

作・おがわ　あきら

〃せいしゅんのはか〃

S42年12月10日完成
（ガロ）第十四作品

おい
宮崎
いるか
ガラッ

!!
よう
梶川か
!
まあ
入れよ
久しぶりだ
な……
…
!

い、いや
今日は
たいした
用事じゃ
ないんだ
又、くるよ
?

お～い
梶川っ
まてよ
!

別に志津子さんがいたって遠慮することないじゃないか
別に……あの人がいたからじゃないさ

あっそうだこれ少いが使ってくれ……ないんだろ……今……

じゃあいつが待っているから…失敬っ
明日いつもの所で会おう!
有難うたすかったよ!

太田志津子……

67.12

純喫茶
ラテン小唄

ところで どうだった 出版社に 送った小説……
フン…… あい変らずさ…… もう一歩 もう一歩さ

新しいのを書いたんだけど どうだろう…… 見てくれないか？
今度は時間がかかったな……

宮崎っ!!

やったな
すばらしい
作品だ
!!
ありがとう
つ!!

なんだ
なんだ
?
モテシタナ

二、三日中に
清書して
出版社へ
送ろうと思って
いるんだ
!!
もし
この作品が
売れたら……
志津子と結婚
しようと考えて
いる
!!

志津子と
…………
結婚っ
!!

そうか
…………
がんばれ
よ!

君の
助言が
……いや
友情が
なかったら
この作品は
生まれてこなかった
よ……ありがと
う

友情……
フン、友情なんかじゃ
ないさ………
俺は友情なんか信じて
いない。
平和の中だけの友情
さ………

友情なんて
ちょっと強い風が吹けば
きれいに無くなってしまう
ものだ
安っぽいものさ……

奴とつき合っているのは
何かと便利だから…

身寄りのない俺には
困ったときに助けてくれる
者が必要なのさ

奴は金を持っている
………ただ
それだけの理由で
つきあっているんだぜ
友情……笑わせるな

ザー
ザー

……
……
……
ザー
サー

梶川さ～ん お客さん ですよっ!!

ハイッ
だれだろう……

!

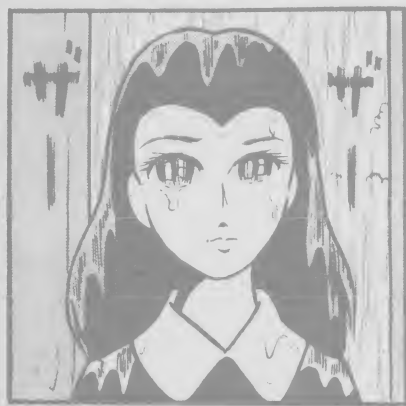
ザ
ザ

し、志津子さん ど…どうして…

死　死　死

なにを驚いているんだ

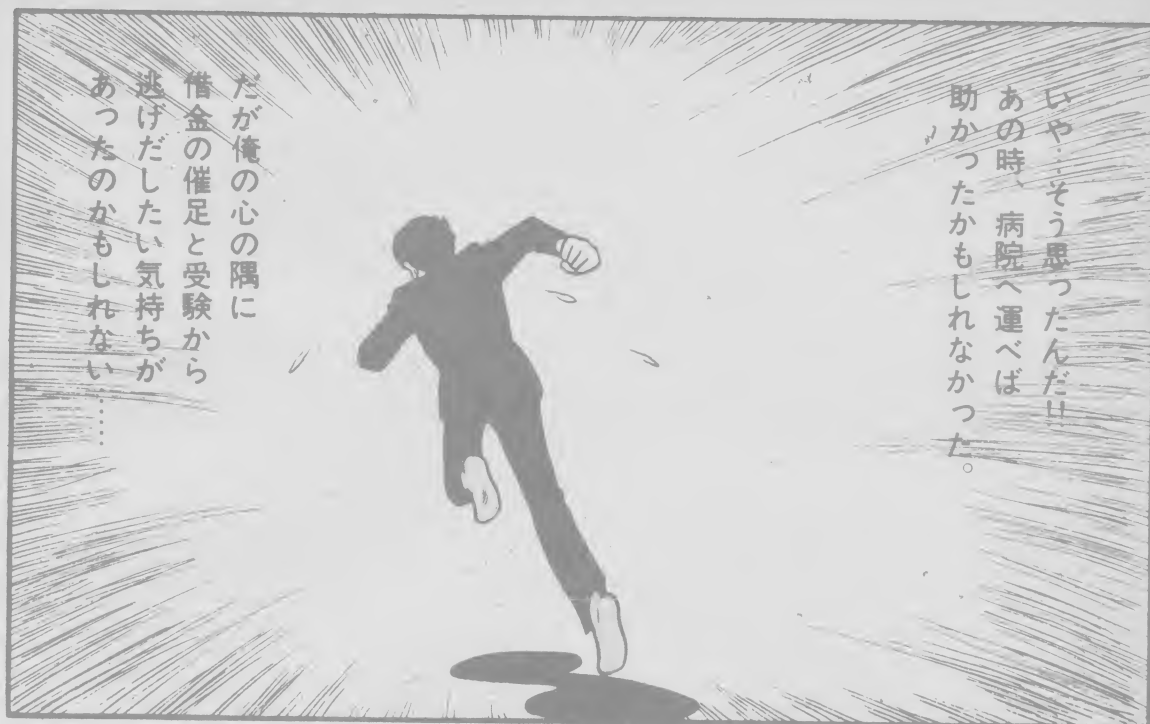
おまえは両親を見殺しにしても平気な男じゃないか!!

いや
ちがうっ

あの時は
あの時は……

おやじの会社の借金の催足と大学入試のことで頭がどうかしていたんだ!!

そうだ
高校三年の冬だった。

おやじは小さな工場の社長をしていた……ところが、その年の不景気のしわよせで不渡りを出してしまった。

死にものぐるいで金策に歩いたが、そのうち家財道具まで持って行かれ、親類たちまでが親父を裏切り、借金の催足だ……そして俺を残して母と毒薬自殺をした。その時受験勉強をしていた俺はトイレに行く途中、それに気付いた。しかし……その時は死なせた方が楽だと思った

いや…そう思ったんだ!!
あの時、病院へ運べば
助かったかもしれなかった。
だが俺の心の隅に
借金の催促と受験から
逃げだしたい気持ちが
あったのかもしれない……

とにかく行こう……宮崎の所へ

ザー
ザー

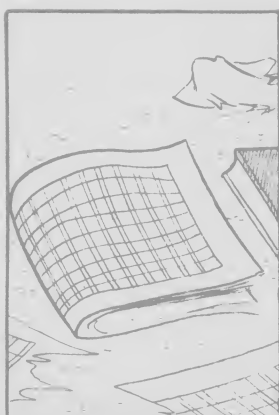
この子は心臓弁膜症でちいさい頃から運動をあまりした事がなかったのです……
友人もあなたたち二人だけのようでした

学校のことでもやっていたのか……
一ケ月ほどほとんど寝ず何かを書いていたそうです

…………

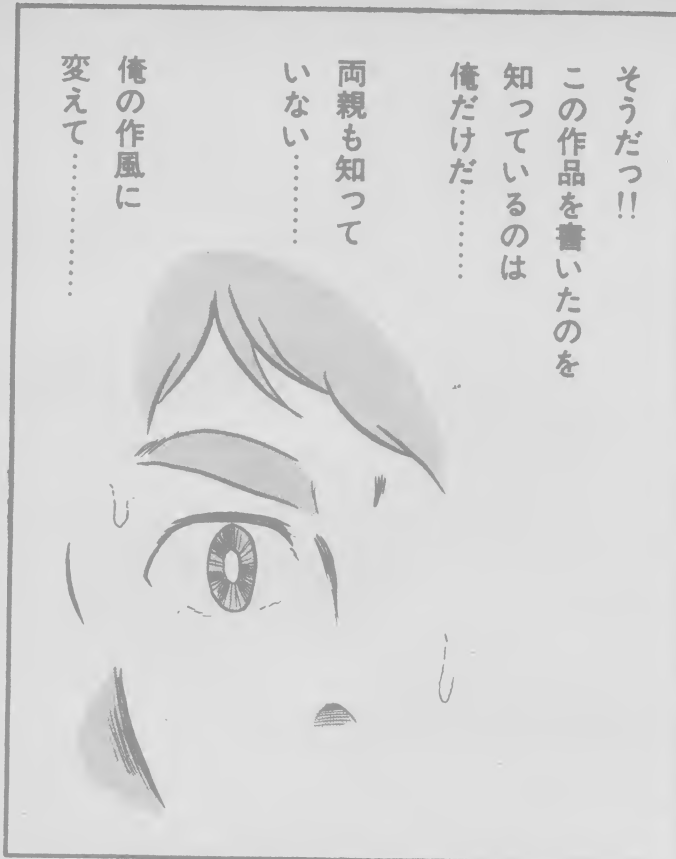
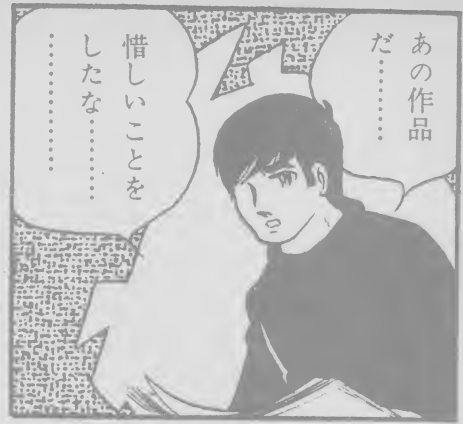
ドャドャ
あ…親類の者が来だようですよければ正一の部屋へでも

ハイ……

私はここにいます……

そうだつ!
……
私はひとしずくの涙も出なかった
私はあの日以来、一度も涙を流した事がないんだ

!!

猟

人間みんな…灰になってしまうのネ………

淋しい…
淋しいわ

そうさ
人生は
一度きりさ
!!

作家は書かなあきません

驚異の新人

"猟師" でデビュー

梶川　浩二

彗星の如く現われた新人作家梶川浩二氏の発表した"猟師"は発売一ケ月目

浩二氏

北国新聞　昭

地元の作家
梶川浩二の"猟師"
ついに六十万部突破!!

弱冠二十一才で文壇にデ

これから

早いものね
宮崎さんが
死んでもう
二ケ月……
遠い遠い
昔のような気が
するわ……
………

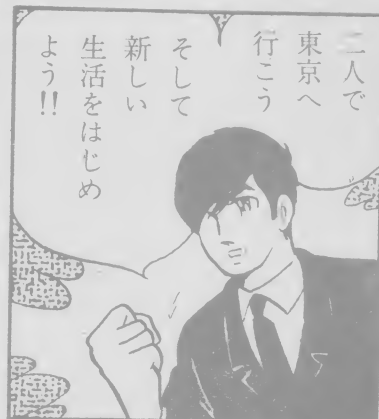
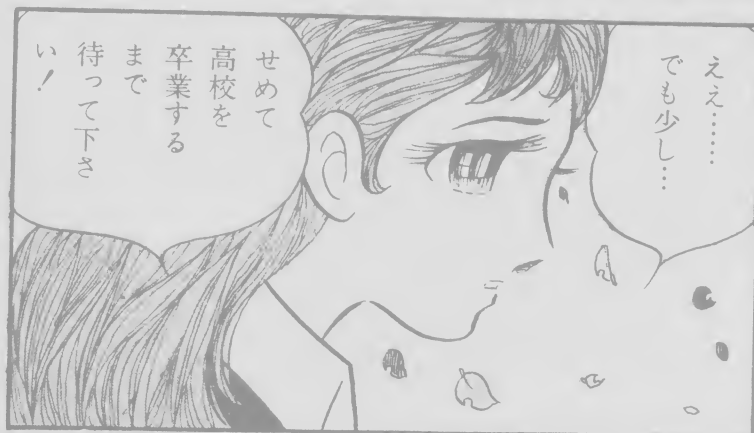
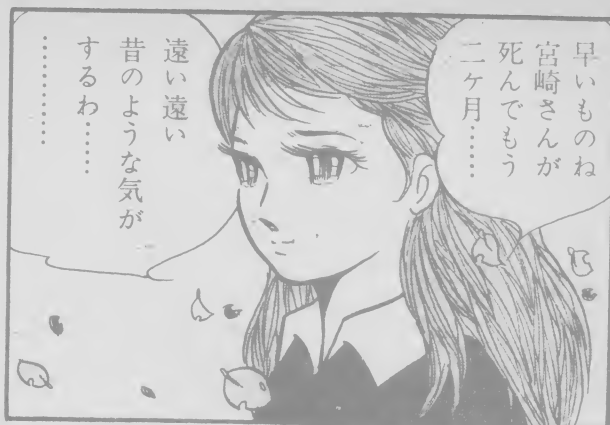
そうさ
人間なんて
死んでしまうと
そんなもの
さ！

ところで
志津子さん
俺の作品
読んでくれ
た
ええ…
猟師…ね
素晴らしい評判
ね……
おめでとう
！

………
僕は君のことを
ひと目みた時から
好きだったんだ
……結婚して
くれないか
！
えっ

………
………

二人で
東京へ
行こう
そして
新しい
生活をはじめ
よう!!

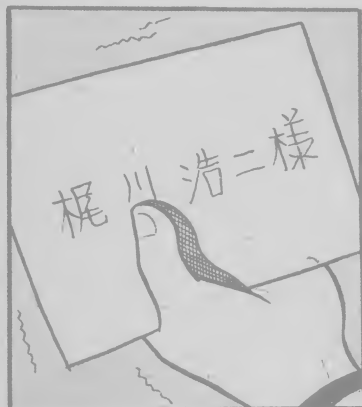
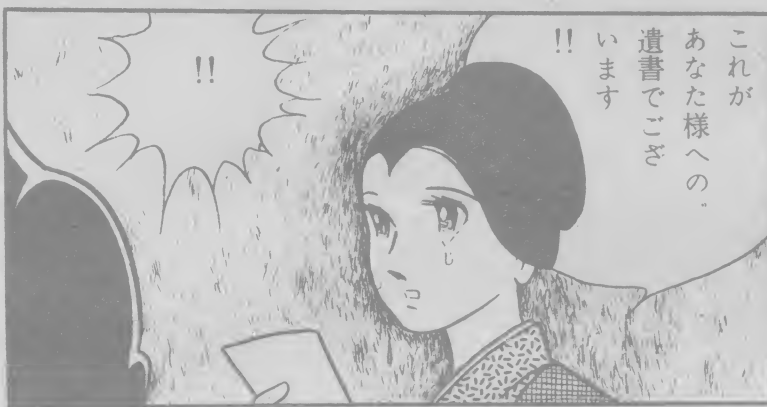
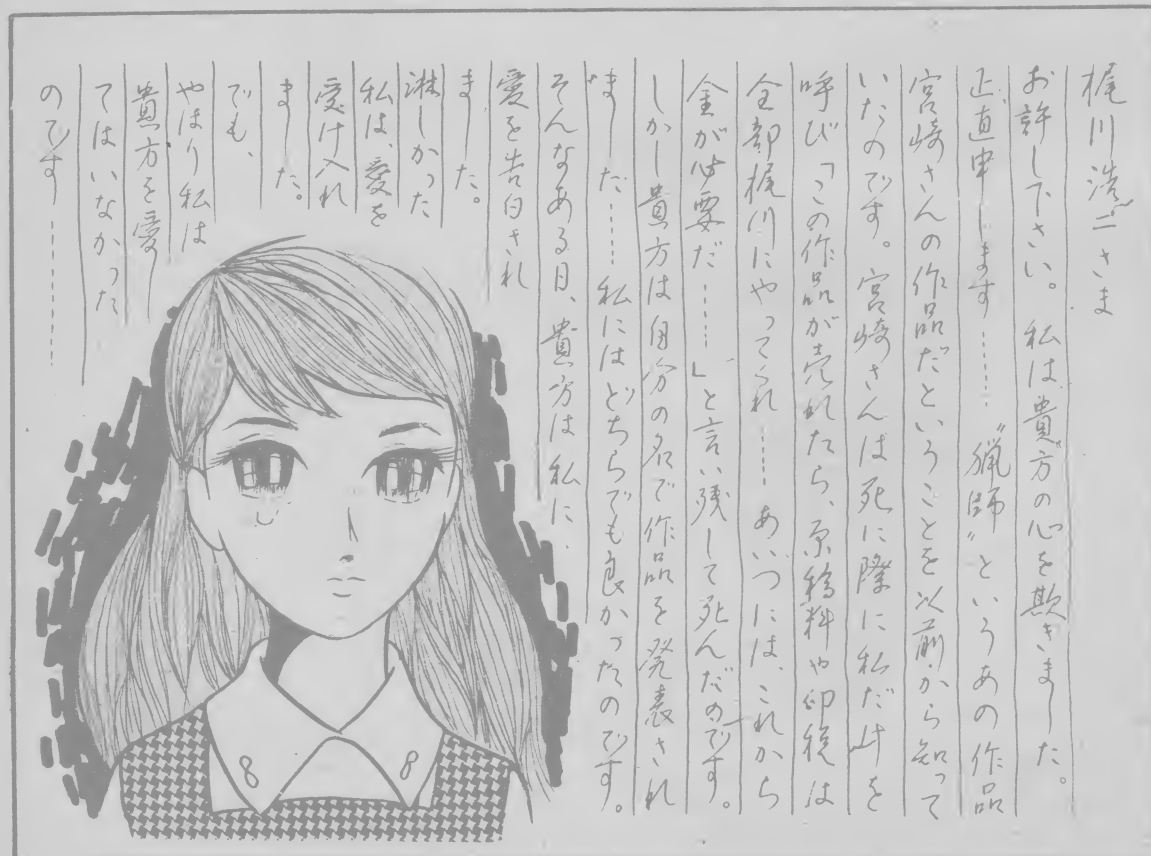
ええ……
でも少し…
せめて
高校を
卒業する
まで
待って下さ
い！

私たちは少しずつ宮崎の
ことを忘れはじめ

小説の方も「猟師」に続け
て他の作品が売れ出し
順調でした……

私は生まれてはじめて幸福を
味わい酔っていたのです。

そんなある日私は一通の電報をうけとった……

アナタノサクヒンガナオキショウニケッテイ……

貴方の作品が直木賞に決定………直木賞……

梶川浩二さま
お許し下さい。私は貴方の心を欺きました。
正直申します……〃猟師〃というあの作品
宮崎さんの作品だということを以前から知って
いたのです。宮崎さんは死に際に私だけを
呼び「この作品が売れたら、原稿料や印税は
全部梶川にやってくれ……あいつには、これから
金が必要だ……」と言い残して死んだのです。
しかし貴方は自分の名で作品を発表され
ました……私にはどちらでも良かったのです。
そんなある日、貴方は私に、
愛を告白され
ました。
淋しかった
私は、愛を
受け入れ
ました。
でも、
やはり私は
貴方を愛
てはいなかった
のです……

完（おわり）

●この作品について批評、感想いただければ幸甚です

（金沢市額新町１丁目182番地49の５　おがわあきら宛）